

水平社博物館ガイド研修会(第1回 2011.4.23) 「水平社博物館ができるまで」

講師:守安敏司さん



本年度からのあらたな取り組みとして、水平社博物館ガイド研修会を開催することになりました。

現在水平社博物館ガイド

ボランティアとして、7名ほどが実働していますが、定期的に研修を行うことで、ガイドとしての資質向上をめざすとともに、日頃疑問に思っていることや困っていることなど、ガイド相互の意思疎通をはかり、よりよいサービスを来館者に提供しようというものです。

第1回目は4月23日、博物館の部屋をお借りして、守安敏司館長より「水平社博物館ができるまで」と題してお話いただきました。守安さんはじめ、博物館スタッフのみなさんには、心のこもったご協力をいただき、本当にありがとうございました。

奈良県内でも御所市内は地区改良事業着手が遅かったために、多くの資料が埋もれたままであったこと、また何より、全国水平社発祥の地であるのだから、いろいろな貴重な資料が残っているのではないかと考えられていました。

1988年地元準備会結成から翌年の建設推進委員会設立総会。1996年建設委員会結成、1997年3月3日起工式。そして1998年5月1日の開館へと準備は進められましたが、守安さんが、水平社博物館開館準備のためのスタッフにと依頼され就任した当時、資料として実在していたのは、ファイル4冊だけだったそうです。それも系統だったものではなかったもので、年代順に並べ直すところから作業は始まりました。

当時、川口事務所の1階で仕事をしていると、子どもの頃に水平社運動を見ていたような地元の人たちが遊びに来られました。そして、水平社創立当時のいろ

んな話を聞かせてくれたり、驚くような貴重な資料を持ってきてくれたりしたそうです。それらを博物館の展示物として整理、分析することと並行して、研究者集会での発表や、地元の先生方との勉強会、連続学習会。いろいろな特別展への資料の貸し出し等の仕事をすすめていきました。

発掘できた資料はいずれも貴重なものでした。たとえば、現在、博物館内に米田富さんの資料が展示されていますが、米田さん亡き後、そのままにしていた書斎を片づけて人に貸すからと呼ばれて、五條市の自宅だった家に行くと、2階の部屋は米田さんがつい最近まで仕事をしていたのかと、驚くほどそのままに、たくさんの資料が出てきたそうです。阪本清一郎さんの蔵からも『水平』のゲラや、原稿用紙などが出てきました。地元の方が亡くなると、ご遺族が遺されたものを持って来てくれたりして、それらも資料になっていきました。

資料を発掘した当時の状況は、雑誌『部落解放』や「毎日新聞」奈良支局の連載でも取り上げられ、開館準備をすすめる上での大きな力になりました。

「水平社博物館内の資料は公式な物ばかりではない。だからこそ、当時の人間関係等がよくわかる」と結ばれたことがたいへん印象的でした。

お話のあとは、収蔵庫に入れていただき、はじめて博物館の収蔵庫なるものに足を踏み入れたメンバーたちは、その設備と収められている資料の豪華さに、思わず歓声をあげました。

また、収蔵庫の引き出しはすべて桐で作られています。桐は、虫などを寄せ付けないために、収蔵には何よりの素材ですが、御所市柏原の重要な産業の一つでもあります。

研修でお聞きしたことや、見せていただいたものを、これからのガイドに生かしていきたいと確認しました。

守安さん、ありがとうございました。(松村徳子)

※6月以降のガイド研修(いずれも、14時~水平社博物館にて)

6月18日「水平社と衡平社」駒井忠之さん(次号で報告します)

7月30日「柏原の地区改良事業」(仮題)

震災後の活動報告1
義援金を届けに岩手へ



運転の〇君に起こされて目を覚ますと、道路標示の「上越」の文字が目に入った。次の分岐をど

ちらに向かえばいいのかわからない。持ってきた高速道路マップの予定のコースにはそんなICはない。小さな文字を必死で捜して、ようやくそこが北陸道の新潟あたりだとわかった。長野から上信越道に向かうところを、直進して北陸道に入ってしまったのだ。長岡ジャンクションから関越自動車道に入って南下し、南関東自動車道から東北道に入ることにした。

5月15日、日曜日の午後10時に、奈良人権部落解放研究所の〇君と僕は、盛岡市の「みちのくみどり学園」に義援金約53万円を届けるために榛原を出発した。

震災直後、〇君が送った安否確認のメールに、震災によるボイラーの破損で高額の修理費がかかるとの知らせが来たのだ。みちのくみどり学園は岩手県盛岡市にある児童養護施設である。そこでは虐待を受け親から保護された子どもが多く生活し、過酷な経験から立ち直るための格闘が行われている。昨年9月の奈良人権部落解放研究集会で、その藤澤理事長に講演をお願いし、理事長もあなた方なら我々の取り組みを分かってくれるだろうと快諾してくれたのだ。

義援金は僕の所属、部落解放同盟の義援金の一部と、奈良人権部落解放研究所、御杖村の有志で募った計約53万円、それに三輪そうめん2箱を付けた。

高速代を少しでも節約するつもりで休日の夜12時までに高速に入った。高い高速代ならその分を送金した方がいい。1000円で行くためには降りずにこのまま高速を走り続けなければならない。関越道では期せずして憧れの魚野川や八海山の銀嶺を見ることができ、通勤ラッシュの南関東自動車道を抜けて東北道に入った。

徐々に道が荒れ、段差がひどくなる。応急処置がなされて通行可能になった道路を、自衛隊や、復旧資材、支援物資を積んでいると思われるトラックに混じって走る。山々はまだ白く雪を抱いており、高速道路は雪代を含んだ綺麗な川を頻りに跨ぎながら走る。山も川も、綺麗なまま放射能汚染にさらされていくかもしれないと思うとやりきれな

い。ようやく午後2時過ぎに盛岡市内に入り、計算通り1000円で高速を降りた。

「みちのくみどり学園」は新しくも、豪華でもない簡素な施設だった。藤澤理事長を訪ね、再会を喜びあった。そして義援金の内訳を説明して手渡した。記念撮影。学園の状況を聞いて、施設を見学させてもらった。

岩手県内で被災で両親を失った子ども達は58名。「みちのくみどり学園」はそのうちの8名を迎えることになる。そのために学園は、学園の中高生を被災地の見学に連れて行ったという。子ども達を迎えるのは子ども達なのだ。これから来る子ども達がどんな体験をしたか、受け入れる側が知っておく必要があると藤澤理事長は語った。ただ見に行きに行くことが避難されていることを重々知りながら、である。園内に貼られてある壁新聞と文集には、子ども達がこの見学をどのように受け止めたかが綴られてあった。

理事長はあいにく予定が入ってしまったので、その日の宿に、旧沢内村のTさんの旧宅を紹介して頂いたのだが、そこも私たちにほとんど勉強になった。

盛岡市内から70キロ近く走り、旧沢内村(西和賀村)のTさんを訪ね、旧宅を貸してもらうことになった。そこ



は、映画「葦芽」(あしかび)で、学園の合宿場所になっていたところだ。畑に生えている行者ニンニク、ウド、ワサビなどを酒の肴に、たくさん話を聞いた。

沢内がなぜ乳幼児と60才以上の医療費無料を実施し、「医療の村」と呼ばれるようになったか、合併して西和賀村になった今はどうか、学園とのつながりは、など…。そして「葦芽」を見ていない僕のために別棟のホームシアターでDVDまで見せて貰った。

秋田のと県境に近いこのあたりは、自然林の山々が幾重にも重なる懐の深い山里で、1年のうち5ヶ月は雪に閉ざされるそうだ。過酷な農作業にも拘らず収入は低く、生活保護とトラコーマの罹患率が高かったという。乳幼児の死亡率が高く、医者にかかるのは死亡診断の時だけという状況から、「医療の村」づくりが始まったのだと言う。

深い山から流れ出すたくさんの川達はどれも豊かな溪相で、たくさんのイワナを育てているに違いない。豊かな自然とは裏腹の貧困。ここも悲しい程の美しさだ。

翌17日は、勧められたとおり、みちのくみどり学園と同じ見学ルートを辿って被災地を見て回った。早朝、沢内を出発し、山越えをして150キロの道のりを走り、宮古に到着。

そこから山田、大槌、釜石と海岸沿いの被災地を走った。報道で周知のように極めて凄惨な光景である。解体が決まり、壁に大きくバツ印が描かれた家。なぎ倒された防波堤。とんでもないところにある船やクルマ。かつてあったとは信じられない程に、根こそぎ消えた「街」の跡。津波の水位が生と死の明暗を分けたことがはっきりと見て取れる。降りて写真を撮ることも心苦しく、被災の瞬間や家族を失った人たちの想像を振り切ってたただ走るしかなかった。復興支援の人たちで近くでは宿がとれず、その夜は山形市で一泊し、翌日、12時間かけて奈良に戻った。

今回の震災では、被災地へどのような支援ができるか、ということと、原発問題にどう向き合うかということが問われている。



支援について言えば、上の報告と自然エネルギーで復興支援を行う「環境エネ

ルギー政策研究所」の義援金を行い、今後、震災で両親を亡くした子ども達を迎え入れている施設への支援を、奈良の教育団体に呼びかけようという案がある。

原発問題については、脱原発への世論を高めるとともに、その方向を確実なものにするため、現在国会に提出されている「全量買取法案」の成立が実現されるよう取り組みたいと思う。

ほちほちボランティアが減っているとの情報もあり、義援金も集まりにくくなってはいるが、これからが本当に支援が必要とされてくる時期ではないか。何ができるか模索を続けたい。

震災後の活動報告2

6.11 原発いらん関西行動

6月11日、大阪中之島公園集合で脱原発世界同日アクション「原発いらん！関西行動 第2弾」が行われた。この行動は4月16日の反原発行動の第2弾として行われたもので、「ほっとねっと」からも数名が、奈良脱原発ネットワークなど、奈良の脱原発を求める人達とともに参加した。



集合時間の午後2時には、大阪中之島公園に脱原発を



求める市民が、思い思いのプラカードやゼッケンを手

続々と詰めかけた。(主催者発表約4000名)

デモ前の集会では主催者アピールや、俳優山本太郎さんのメッセージの紹介が行われ、歌唱指導？では奈良実行委員会代表のHさんがマイクを取った。その後、奈良グループが横断幕を持って最前列にたち、関電を付近を通る御堂筋デモに出発した。デモ隊の「原発はいらない」との力強いアピールに、沿道の多くの市民が耳を傾け、声援を送ってくれた。

福島第1原発事故の発生によって、ようやく原発の危険性を多くの人々が実感するところとなったが、事故発生直



後、なかなか情報が公表されない状況で、多くの政府官僚は家族をいち早く東京から避難させ始めていたという。福島で20キロ、30キロが避難区域として議論されていた最中に、事故の危険性は明白なのに、何故原発に固執しつづけるのか。そこには電力の地域独占体制という大きな利権が働いている。

脱原発の世論をより大きなものにすると同時に、脱原発への具体的道筋を明らかにする必要があると思う。その意味では、今国会に提出されている全量買取法案(電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法案)は非常に重要な争点で、法案が通れば市場原理によって自然エネルギーが普及して行かざるを得ない。

こうした具体的ないまこそ脱原発の声をより一層大きなものにしよう！

(理事長・伊藤満)

野次馬情報 掲示板

◇ライトダウンイベント at 薬師寺

日時:7月7日(木) 19:00~20:00

場所:薬師寺 中門前

(近鉄西ノ京駅すぐ、または奈良交通バス「薬師寺」下車すぐ「薬師寺東口」下車徒歩5分)

プログラム:ソーラーランタン点灯・薬師寺弁天祭・和太鼓による演奏・七夕飾りづくり

参加費:無料 ※申込不要

問合せ:奈良県地球温暖化防止活動推進センター(特定非営利活動法人奈良ストップ温暖化の会(NASO))ライトダウンキャンペーン事務局(FAX:0742-55-8368、E-mail:otoiawase@naso.jp)

◇まなび処 結第2回落語会「みあと奇席」

日時:7月9日(土)17:00~(受付14:30~)

場所:まなび処 結(奈良市三条大路2丁目520-3、コーナン隣)

出演:桂出丸さん、笑福亭呂竹さん

木戸銭:1500円(お茶付)

定員:50人

※BBQ大会

18:30頃~、同所にて

参加費:2000円(差入れも大歓迎!)

定員:30人ぐらい

申込・問合せ:ヒューマンヘリテージ(株)(TEL0742-35-3755、FAX0742-35-3754、Email:office@human-heritage.jp)

◇奈良ソーシャルビジネスセミナー2011 第1回 女性編

日時:7月9日(土)13:30~(受付13:15~)

場所:奈良県中小企業会館

内容:女性の目線からソーシャルビジネスを始められた方からのお話。

事例紹介① 手作りハムばあく 代表 泉澤 ちゑ子さん

事例紹介② 伸友留学生支援プロジェクト

代表 曹 釋心さん

事例紹介③ 生活協同組合コープ自然派奈良

理事長 辰巳 千嘉子さん

参加費:無料

募集人数:40人

申込・問合せ奈良NPOセンター(TEL 0742-20-5027、FAX 0742-20-5028、Email:sbnara@naranpo.jp)

◇「森と暮らしプロジェクト」

☆ファミリーキャンプ

日時:7月17日(日)~18日(月祝)

場所:奈良市野外活動センター(予定)

講師:橋本高志さん(ゆめづくりあそび屋代表)

定員:20人

☆一刀彫教室

日時:7月23日(土)~24日(日)

場所:奈良市 なら工芸館

講師:奥田裕さん(奈良県工芸協会理事長)

定員:15人

※いずれも要申込。1週間前まで、定員になり次第締切。

申込・問合せ:NPO 法人 宙(おおぞら)塾

(TEL 0742-24-1618、FAX 0742-24-2258)

◇佐保川まちづくり塾(高齢者のためのパソコン教室)

日時:8月~9月 毎週土曜日 9:30~12:00

場所:奈良県図書情報館(セミナールーム)

内容:パソコンの仕組みと基本操作

・マウス操作及びキーボード入力(ローマ字)

・簡単な文書作成・インターネット検索の初歩等

定員:20人

受講料:毎回500円×8回

申込:図書情報館2階受付カウンターで所定の用紙に記入

問合せ:図書情報館(TEL0742-34-2111(代表) FAX 0742-34-2777 E-mail:info@library.pref.nara.jp)

◇市民と議員の条例づくり交流会議 2011

日時:7月30日(土) 14:00~17:30(終了後、懇親会予定)

7月31日(日) 9:30~15:30

場所:7/30 京都産業大学、7/31 龍谷大学深草キャンパス

参加費:議員・議会事務局10000円、市民5000円、学生2000円(会員:議員5000円、市民・学生は無料)プログラム:

7/30 総会、特別分科会、交流会

7/31 全体会、分科会

申込:市民と議員の条例づくり交流会議事務局

(jourei@jourei.jp)に7月15日まで。

主催:市民と議員の条例づくり交流会議、龍谷大学地域人材・公共政策開発システムオープンリサーチセンター

◇なら・ソーシャルビジネスコンテスト 2011

締切:9月30日(金)必着

募集部門:高校生部門、大学生・専門学校生部門、社会人部門の3部門

問合せ:良NPOセンター(TEL 0742-20-5027、FAX 0742-20-5028、Email:sbnara@naranpo.jp)